

マクロ経済学 第6回 解答解説

A1. × (📖 VテキストP246)

市中銀行が購入する場合（市中消化方式の場合）にはLM曲線はシフトしない。中央銀行が購入する（中央銀行引受け）場合、ハイパワード・マネーの増加によってマネーサプライが増加するため、LM曲線が右方シフトする。IS曲線についてはどちらの場合も右方シフトする（∵政府支出増加）。

A2. ○ (📖 VテキストP289)

A3. × (📖 VテキストP304)

名目賃金の下方硬直性により、ケインズ派の総供給曲線は非自発的失業が存在する領域で右上がりになる。

A4. ○ (📖 VテキストP306)

A5. × (📖 VテキストP306～307)

どちらにおいても、物価は上昇する。ただし、ケインズ派の場合、非自発的失業が存在すれば（総供給曲線が右上がりの範囲では）、物価の上昇は古典派ほどではなく、国民所得が増加する。古典派の場合には国民所得は完全雇用水準で不変である。

A6. × (📖 VテキストP308～309)

名目賃金の上昇は、右上がりの総供給曲線（ケインズ派）を、下方ではなく、上方シフトさせるため、物価が上昇するが、これはコスト・プッシュ・インフレである。